

地震への備え

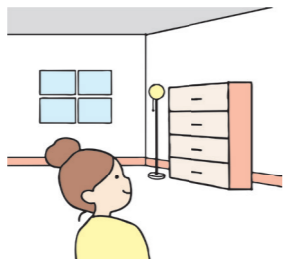
地震は、いつどこで起こるか予測できません。被害を最小限に食い止めるため、身の回りの危険箇所を見直し、事前に安全対策をしておきましょう。

家の中の安全対策（家具の転倒・ガラスの飛散・避難路の障害物）

家具について

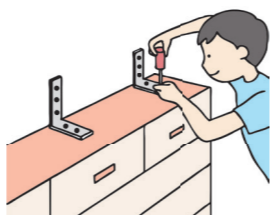
家具を安全に置く

家具は、できるだけ人の出入りが少ない部屋にまとめる。寝室の家具は、体の上に倒れてこないように配置する。



家具の転倒や落下を防止

家具と壁や柱の間に隙間を作らないようにし、L字金具や留め具などで固定する。



寝室や子ども部屋、高齢の方の部屋などには倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生したときは、倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れるおそれがあるので十分に注意する。



通路や出入りに荷物をおかない

いざというときの避難路を確保するために、玄関、通路や出入り口には荷物を置かないようにする。



窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る

窓はもちろん、食器棚や額縁などに使われているガラスにも出来るだけ飛散防止フィルムを貼る。



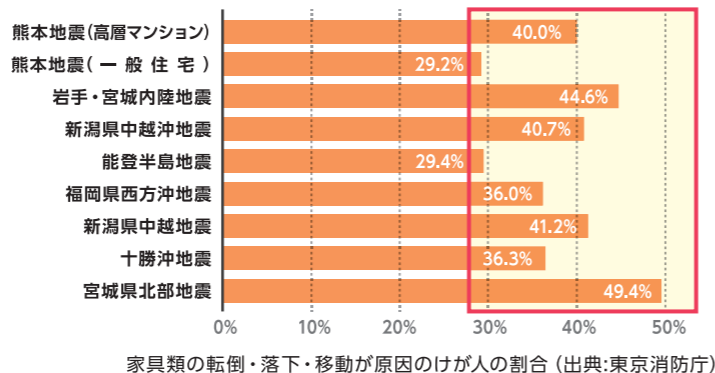
家の外の安全対策（落下、倒壊の危険）

家の外も地震に備えて安全対策が必要です。落下物やブロック塀の倒壊などがないように点検しておきましょう。

- 屋根瓦のずれ、ひび割れなどがあれば補修する。
- アンテナをしっかりと固定し落下を防止する。
- ベランダに落下物を置かない。
- 塀にひび割れや傾きなどがあれば修理し、倒壊を防止する。
- プロパンガスのボンベはしっかりと固定する。など

家具の転倒や落下での負傷割合が約3割から5割

近年に起きた地震での負傷原因の約30%~50%が、家具類の転倒・落下によることが東京消防庁の調査でわかっています。また、家具の転倒や落下、ガラスの飛散によって室内が混乱し、避難が遅れる原因にもなります。

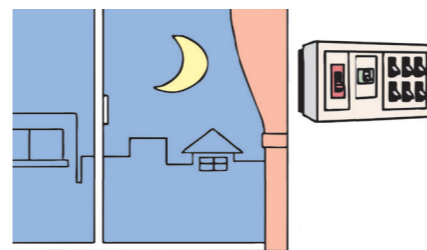


停電時の行動

停電時にとるべき行動

大雨や台風、落雷によって、停電が起きる場合があります。自宅周辺も停電しているときは電力会社へ連絡のうえ、二次災害を招かないために落ち着いて行動しましょう。

1 停電の範囲が自宅のみか周辺一帯かを確認する



- 電気が消えたときには、まずブレーカーをチェックをしましょう。ブレーカーが「切」になっていたら「入」に戻して電気がつけば問題ありません。
- 周囲も停電し、ブレーカーを戻しても電気が戻らないときは電力会社に連絡しましょう。

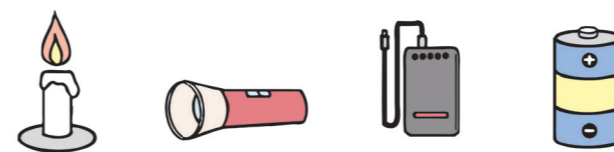
2 電気以外のライフライン（水道・ガスなど）が使えるか確認する



- ポンプで給水しているときは断水しますので、水の確保が必要になります。トイレの水も必要です。
- 通電していないと使えないコンロもあります。非常時に備えて卓上コンロやガスボンベを用意しておきましょう。

3 明かりを確保する

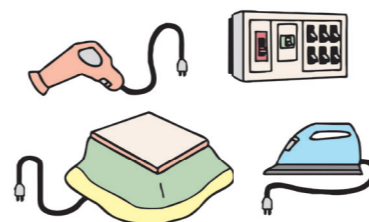
- 懐中電灯、ランタン、ろうそくなどを用意しましょう。ろうそくを使用するときはしっかりと固定し火災に注意しましょう。



4 電源を確保する

- 発電機、モバイルバッテリー、乾電池などを用意しましょう。停電時、ほとんどの固定電話は使用できなくなります。連絡手段や情報収集に携帯電話、スマートフォンが不可欠になりますので、予備バッテリーを備えておきましょう。

5 復旧時の通電火災防止のためにコンセントを抜く、ブレーカーを切る



- 電気の復旧時に、停電前にスイッチが入っていた状態の電化製品に過大な電流が流れることで、機器が故障し発火する通電火災が起こるおそれがあります。電化製品のコンセントは抜いておきましょう。
- 就寝時や不在中の出火は大変危険です。ブレーカーを切っておきましょう。